



次代を担う園長先生たちへのエール



理事 蓬生 君子

令和2年度（2020）は、誰もが経験したことのない衝撃的と言っている事態で始まりました。園長として経験の長さに関係なく新たな保育運営を余儀なくされたことでしょう。

とりわけ東京の新型コロナウイルス感染状況が深刻化しつつあるなか、子どもの命を預かる保育園の責任は重大で、その緊張感は毎日極限に達していたのではないかと推察いたしております。

保育園の感染症対策は国のガイドラインに基づき感染症対策マニュアルを作成し、日常的に安全で快適な保育環境を整えています。しかしながら、今般の新型コロナウイルス対策は10年前の新型インフルエンザによる臨時休園とは状況が全く異なり、苦戦されていることでしょう。

私は48年前に縁があって、若くして新設保育園の園長に就任しました。医療機関の敷地内に設置されたということもあり、幸いなことには医療に従事される保護者や小児科医局をはじめ様々な診療科の医師から「門前の小僧」程度に知識を与えていただきました。

また、就学前教育という視点では、大学時代の教育実習とは別に、近隣小学校の授業見学や現場教師の話など、経験を積めたことは大変有意義でした。

当時、東京都社会福祉協議会や東京都私立保育園連盟の役員の方には豊かな経験に裏打ちされた的確なアドバイスをいただき、前任者がいない若い園長としての経験は、苦しいけれども楽しくもあり、やりがいのある日々であったと振り返っています。

平成7年（1995）から14年度まで東京都社会福祉協議会の保育部会長の任をお受けし、研修、広報、調査活動をはじめ、東京都に対する予算対策等に関わりました。

サービス推進費補助事業や福祉サービス第三者評価システムにも関わることができ、これらを通して東京都民間保育園協会が誕生したことは、私の大きな夢の実現でもありました。

また、保育現場を守りながらも部会長という重責で、渋谷（自園）と都庁や東京都社会福祉協議会を往来できたのも若さと信頼できる職員がいたからだと思っています。

紙幅の制限がありますので当時の詳細は省略しますが、若い世代の園長先生たちには『苦労は買ってでもしろ』と先代たちがいわれたように、地区園長会はもちろんのこと民保協の各部会の役割を担っていただきたいと思っています。関わることによって得るものは大きいですし、新しい時代を切り開くには何よりも柔軟な考えや大胆な発想が不可欠だと思うからです。

現場を退任した今の私の主な役目は、法人内保育園統括理事や渋谷区私立保育園・認定こども園園長会アドバイザーとして人材育成や保育の質の向上のためのサポートですが、元気なうちに次代を担う人材が育ってほしいと願い、その一助となることを私の喜びとしたいところです。

乳幼児の保育・教育の未来を担っていかれる諸先生には、先代の人たちから育てていただいた感謝を込めて、謙虚に学びつつ科学的で論理的な目で予想図を描きながら「いつもニコニコ元気よく」を合言葉に力を発揮してほしいとエールを贈ります。